

農産FAX情報 第9号

令和元年9月15日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

(1) は種適期

① 「きたほなみ」の越冬前主茎葉数の目標は**5～5.5葉**、越冬前茎数では**650本/m²**です。

根雪前の生育量確保には、早期は種による生育期間の確保が最も重要であり、十勝南部では積算気温が470℃以上となる**9月16～21日**が**は種適期**になります。安定した収量を確保するため、適期には種を行いましょう。また、遅くとも9月28日までには種してください。

(2) は種量

① は種時期に合わせては種量を調整し、越冬前に頑健な茎を確保しましょう。

表1 は種期別は種量の目安 (大樹アメダス平年値使用)

区分	適期播き	やや遅播き	遅播き
は種日	9月16～21日	9月22～25日	9月26～28日
は種粒数(粒/m ²)	120粒～150粒	150粒～200粒	250粒程度
A産 は種量(kg/10a)	5.6 kg～7.0 kg	7.0 kg～9.3 kg	11.6 kg程度
B産 は種量(kg/10a)	5.8 kg～7.3 kg	7.3 kg～9.7 kg	12.1 kg程度
C産 は種量(kg/10a)	5.3 kg～6.7 kg	6.7 kg～8.9 kg	11.1 kg程度

※は種量は 出芽率90%で計算

② 粘質土壌や過湿状態での種は、出芽率低下を考慮して180粒/m²程度～に増量して下さい。

③ **は種深度は2cm程度**となるようは種機の調整を十分に行いましょう。深播きは出芽率の低下以外にも二段根の発生による生育不良、雪腐病等の発生要因となります。

(3) 施肥

① 越冬前の茎数や葉数を確保するために、**基肥窒素は4kg/10a**を下回らないようにしましょう。

② 銅不足が懸念されるほ場では、は種前に硫酸銅を散布するか、銅入り肥料を使用しましょう。

(4) 除草剤の使用

① イネ科雑草対策には秋期の土壌処理が効果的です。小麦3葉期までに早めの土壌処理作業を行いましょう。

表2 秋まき小麦土壌処理剤例

薬剤名	散布時期	使用	10a 当り	注意事項
-----	------	----	--------	------

		回数	薬量	
ゴーゴーサン乳剤	は種後～出芽前	1	300～400ml	・排水不良ほ場、多量降雨が予想される場合は使用を避ける ・雑草生育が進むと効果が低下する
	出芽前～麦2葉期		300～500ml	
ガルシアフロアブル	は種後～出芽前	1	150～250ml	・砂土及び過失での排水不良ほ場での使用は避ける ・麦の葉身に一過性の白斑を生じることがある
	出芽直前～麦3葉期		100～200ml	
ガレース乳剤	は種後～出芽前	1	200ml	・砂土及び過失での排水不良ほ場での使用は避ける ・麦の葉身に一過性の白斑を生じることがある ・スズメカビは生育が進むと効果が劣る
	小麦出芽後～出芽揃期 (土壌処理兼雑草茎葉散布)		150～250ml	
	麦1～3葉期 (土壌処理兼雑草茎葉散布)		100～150ml	

2 てんさい

- (1) ヨトウガ及び褐斑病の発生に注意が必要です。ほ場をよく確認し、防除を行う場合には、薬剤の使用時期等に注意し適正に防除してください。
- (2) 雑草の発生が多いほ場は、雑草の抜き取りや刈り取りを早めに行いましょう。

3 豆類

- (1) 葉の黄化の度合いは、ほ場により様々です。収穫作業時には倒伏や子実水分、葉落ち程度を確認し、収穫機の作業条件を調整して下さい。
- (2) 機械収穫時の注意点
 - ① 小豆や菜豆のピックアップ及びコンバイン収穫は、下表を参考に実施してください。
 - ② やむを得ず完熟前に機械収穫をする場合は、作業速度を下げ、収穫した子実は必ず常温で通風乾燥を行ってください。熟莢率が80%未満で収穫した場合は乾燥の均一化のため十分な攪拌も必要です。

表3 ピックアップ収穫の要点

区分	小豆	金時	手亡
刈取	熟莢率100%の日から 1～2週間後程度後 (子実水分16～18%)	熟莢率100%の日から 6日以内朝露のある 時間帯に刈り取る	熟莢率100%の日から 1週間以降
脱穀	土壌表面が乾燥している時に行う		

回転部の夾雑物除去などは、回転を止めてから！
 日没が早まっています。路上での追突事故を防止するために、トラクタや作業機には必ず「低速車マーク」や「反射テープ」を装備しましょう！